

平成27年度研究成果中間報告書《平成27年度指定教育課程研究指定校事業》

都道府県・ 指定都市番号	59	都道府県・ 指定都市名	京都市	研究課題番号・校種名	3(5) 幼小接続
				領域名	幼小接続
研究課題	<p>学習指導要領の実施を踏まえた、学校全体での教育課程の編成、指導方法等の工夫改善に関する実践研究</p> <p>(5) 幼児期の教育と小学校教育との円滑な接続を図るための指導計画の工夫、及び指導内容、指導方法等の工夫改善に関する実践研究</p>				
ふりがな 学校名 (園児・児童数)	<small>きょうとしりつふしみすみよししょうちえん</small> ・京都市立伏見住吉幼稚園 (75人) <small>きょうとしりつふしみすみよししょうがっこう</small> ・京都市立伏見住吉小学校 (448人)		学校・地域の特色及び実態等 地域に根差し、愛され、小学校は創立112年、幼稚園は創立105年の歴史のある幼小であり、細い道路を隔てて隣接している。		
所在地 (電話番号)	幼稚園	〒612-8315 京都市伏見区中之町478番地		075-601-3652	
	小学校	〒612-8314 京都市伏見区住吉町455番地		075-611-5243	
研究内容等掲載ウェブサイト URL	幼 http://cms.edu.city.kyoto.jp/weblog/index.php?id=501408 小 http://cms.edu.city.kyoto.jp/weblog/index.php?id=116602				
研究のキーワード					
・本地域に合った接続期教育課程 ・安心・安定と主体性 ・人的関わりと環境構成 ・数的な学びの芽生え ・保育と授業づくり					
研究成果のポイント					
○ 幼小の接続を考える視点となる「三つの自立」(学び・生活・精神上的の自立)と「学力の三つの要素」(知識技能・思考力判断力表現力等・学習意欲)では表しきれない子供の「安心・安定」及び「主体性」の育成を中心課題として研究を進めた。 ○ 幼小で共通して子供を見る具体的な場面として「数的場面」を取り上げた。幼児期の「数的な学びの芽生え」と思われる姿を記録し省察することにより、幼児の遊びの中に潜む、体験を通じた必要感に基づいた数的な学びの重要性が認識できてきた。 上記のように接続の視点とその具体的な場面を幼小で共通にしたことで、幼児期から児童期への発達や学びを見通し系統立てて取組始めている。					

1 研究主題等

(1) 研究主題

子供の主体性を育む幼小の円滑な接続の在り方を探る
 ～幼児と児童の数的感覚を中心に～

(2) 研究主題設定の理由

本地域の子供たちは、幼小ともに素直で優しく、興味のあることや与えられた課題には積極的に取り組むことができる。その一方で、教師の支援に頼ったり、思いがあってもそれをうまく表現できなかつたりするなど、自信のない様子も見られる。

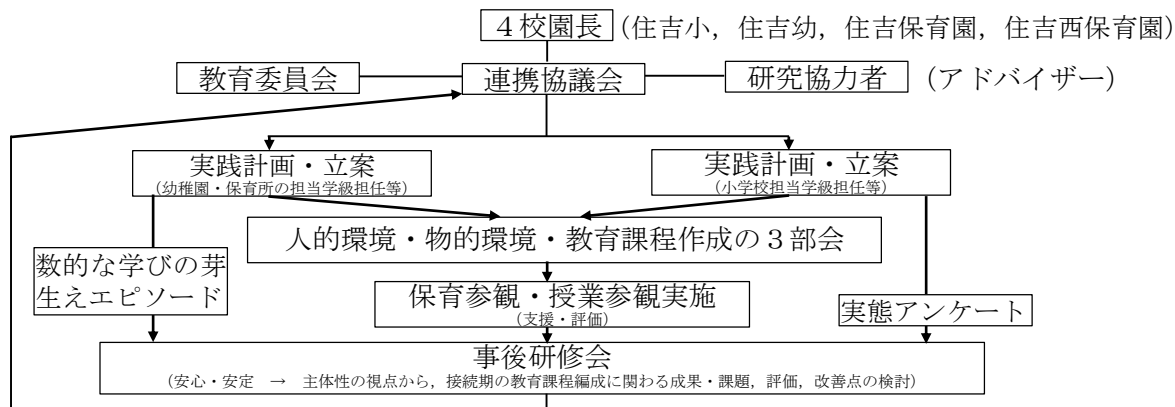
このような実態から、幼児期においては、自信と自立を育み、小学校教育へつなぐこと、小学校においては、幼児教育の成果を生かし、主体性(自ら進んで遊び学ぶ姿・自分の力で遊び学ぶ姿)を引き出すことを目指したい。そして、友達や教師などに関わりながら、自分で考え、判断し、行動する子供を育みたいと考える。

これまで、幼稚園と小学校は交流を進めてきており、連携・接続の重要性は認識しているものの、幼稚園は今まで幼児期の教育を小学校に見える形で発信することが不十分であったとともに、小学校も幼稚園の教育内容に対する関心が薄く、教師同士が互いの教育を理解し合うまでには至ってい

ない。今、子供が安心して入学し、幼児期の学びを小学校教育へ円滑に接続するためにも、幼児期の学びの芽生えを明らかにし、児童期の自覚的な学びへとつなぐ視点から接続期の教育課程を作成することが急務であろう。その具体的な場面として、幼児・児童の「数的感覚」に視点を当て、幼児期の数的な学びの芽生えと小学校での学びとの関連を整理したい。

京都市の接続期の教育課程は、平成 21 年度を皮切りに作成されてきているが、同一地域の幼小で具体的に作成されたものはなく、今回、幼小での接続期の教育課程づくりの研究を推し進めると共に、同一地域の保育園、幼稚園との連携も進めていきたい。

(3) 研究体制



- ・京都市教育委員会首席指導主事を招き、取組を報告し、指導助言を受ける。

(4) 1年間の主な取組

平成 27 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校スタート時に必要な安心・安定と主体性を幼小共通のキーワードとして確認し、その視点から保育・授業づくりを見直し、指導内容の改善に活かす。 ・その具体的な場面として、幼児・児童の数的感覚に着目し、幼児期の数的感覚の芽生えと思われる姿を記録し、小学校教育における算数科等の学びとの関連を整理する。 ・保育参観・授業参観を行い、子供の発達の理解や教師の援助・環境構成について学び合う。 ・年長児後期（9月～）の姿から、安心・安定と主体性を育む環境構成や援助の在り方を明らかにし、それに基づいて、小学校へつなぐ視点を持った教育課程を作成する。 ・1年生当初の安心・安定と主体性を育む環境構成や援助の在り方を7月までの児童の姿から週案形式で作成し、それに基づいて小学校スタート期の教育課程を作成する。 ・第1年次の研究報告会を開催する。（全学年の保育・授業公開を含む） ・1年間の成果と課題を振り返る。
----------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

2 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

① 本地域に合った接続期の指導計画を構想する

本園卒園児が小学校の生活や学習にどのようななじんでいくかを幼小の教師同士で記録省察し、子供の姿を通して、幼稚園から小学校教育への円滑な接続に向けた本地域に合った接続期の指導計画の在り方を探る。

② 幼児期の数的な学びの芽生えを小学校教育に生かす。

幼小の接続を考える具体的な場面として、幼児・児童の「数的感覚」を取り上げ、幼稚園での日々の遊びや生活の中に潜む幼児の数的な学びの芽生えを明らかにすると共に、小学校教育の算数科等の授業へのつながりを整理する。

(2) 具体的な研究活動

① 本地域に合った接続期の指導計画を構想する

卒園児のA児は、幼稚園では比較的しっかりしていると思われる幼児であったが、そのA児にも小学校になじむ過程で躓きが見られた。幼稚園での取組の在り方を振り返ると共に、小学校にスムーズに順応できる指導計画の在り方を探る中で、いわゆる三つの自立に向かう姿から小学校の学力の三要素につなげる教育課程では表現しにくい部分があることに気付いた。そこで、有識者の協力を受け、本地域の接続期の教育課程、及び指導計画構想のキーワードとして「安心・安定」を重要視することとし、それを基盤に自己発揮し「主体的に活動する」姿を目指すことにした。

安心・安定と主体性

幼稚園年長児の後半期は、入園時より教師や友達と共に積み重ねてきた安定した園生活を基に、更に年長児としての自覚を持って主体性を発揮する時期であると同時に、新しい小学校生活への不安を感じる時でもある。その不安を軽減し、新しい環境への期待を持って自信を得られることが「安心・安定」につながると考える。そのために、この時期の幼児の姿の省察を通し幼稚園既存の教育課程及び指導計画を見直し、小学校教育につなぐ視点から「安心・安定」及び「主体性」を重視した指導計画を作成・提案することとした。

今後の交流活動では小学校の施設を利用する予定である。小学校での実体験を通して小学校生活への不安を期待に切り替え、自立を意識した幼稚園の生活を創り、自信を持って小学校スタート時の「安心・安定」が獲得できるよう指導計画の充実を目指す。

小学校においては、スタートカリキュラムづくりに着手した。入学当初の新しい人間関係の中で「安心・安定」を特に重視し、まず、教師との信頼関係づくりを基盤にした。そして、教師からの教え込みで学習するのではなく、子供の興味や関心を生かした導入の工夫として、幼稚園や保育所で経験した遊びやゲーム、具体的なものとの関わり等を通して、子供自身が発見をしたり、課題を見つけたりすることのできる授業内容を考えた。また、最初の週の一日のはじまりは、より安心した生活の流れとなるように、同じ仲間の活動（幼稚園でしていた遊び等）を入れるなど工夫した。また、授業の組み立ても、1時間単位ではなく15分刻みの単位で考え、生活科を基盤とした合科的なものを設けるようにした。

更に、全学年において「主体性」について「自ら進んで学ぶこと」、「自分の力で学ぶこと」と共通理解し、子供たちが生き生きと主体的に学ぶ姿を目指す授業づくりの取組を進めてきた。子供の集中力が持続し、思考が途切れないように、学びの連続性を意識した単元を構想した。子供にとって身近な題材を取り上げたり、学習した内容を活かせる場を設定したりするなど、他教科や日常生活とのつながりも大切にした。また、様々な学習で他学年との協力体制を構築し、あこがれの上級生をモデルとした意欲付けにもなるように考えた。

人的関わりと環境構成

上記のような「安心・安定」「主体性」を具現化するために、指導計画において人的な関わりや環境の構成の視点からの配慮事項を明示することとした。幼小の共通場面とした「数的な学びの芽生え」を明らかにする視点からも、数的な環境の整備も進め、その環境設定意図を配置図上に写真と共に記録し、教師が意識して関わるができるようにしてきた。

小学校では、スタート期の「安心・安定」につながる環境構成として、物的な掲示物や設置物等の環境構成の在り方を追求すると共に、人的関わりの在り方についても幼稚園との交流を生かしながら追求してきた。また、数的な事項に親しみを持って体験し、感覚を通して学ぶことで児童の理解をより確かなものとなるようなコーナーを学年ごとに工夫した。

②幼児期の数的な学びの芽生えを小学校教育に生かす。

幼児の数的な学びの芽生えと思われる姿を記録し、発達の様相の根拠となる事例を集積している。

それらの事例を省察し、小学校教育へのつながりを見通せるよう、小学校1年生の算数科のカテゴリー（「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」）に分け、各エピソードを年齢と内容毎に整理し、幼稚園における数的な学びの芽生えの姿を明らかにしようと試みた。事例によっては、発達の過程が見え始めた内容もある。幼児期の数的な感覚は、具体的な活動の中で自分にとって関係の深い人やものとの関わり合いを通して学んでいることが多いことも分かってきた。

こうした姿は、これまで教師があまり意識していなかったことでもある。教師自身が、幼児の遊びの中に潜む数的な感覚を捉えておくことで、数的な学びの芽生えを見逃さずに関わることができ、幼児はさらに主体的に取り組むようになると思われる。中には、この数的内容分類に当てはまりにくい内容もある。理科との合科的内容等様々であり、幼児の学びの芽が未分化の状態であることを示しているのではないかと考えるが、詳しく分析し示すまでには至っていない。分類することが目的とならないよう、そうした姿の中にこそ、幼児期特有の「遊びを通して総合的に学ぶ」姿があることも見逃さないようにしたい。

3 研究の成果と課題

(1) 成果

- 幼小の教師同士が顔見知りになり、交流を重ねることで互いの実践が見えるようになってきた。幼稚園の教師の「幼児の思いをよく受け止め、言葉かけが温かく、柔軟であること」を小学校教師が認識し、児童への関わりの手がかりともなっている。
- 幼児・児童の実態を捉え、よりよい環境の設定や援助の在り方について振り返ってきたことで、「安心・安定」をキーワードに互いが保育や授業を見直そうという意識が生まれた。その結果、幼小で共通した視点での教育課程及び指導計画の作成につながった。
- 環境設定の見直しにおいては、幼稚園では数的環境を設定しマップを作成することで、教師の幼児の数的感覚を受け止める意識を高めたり、小学校では掲示の仕方や見せ方を工夫したりして、児童の意欲や興味を喚起することにつながった。

(2) 課題

- 幼稚園年長児後期に育むべき姿として、「安心・安定」を基盤に主体的に取り組んだり考えたりして、自信を持つことの大切さが明確になったことを今後のよりよい保育づくりに生かす。
- 現在、幼小それぞれが接続期の教育課程を作成中であり、互いの内容を理解したり、言葉を吟味したりする等ができていない。今後、実践を通して、内容の検証が必要である。
- 物的環境については、特に入学当初の1年生の「安心・安定」を共通認識し、幼小が協力して人的環境も含めた環境整備を進めていきたい。
- 幼児の数的な学びの芽生えのエピソードを小学校と共有して、更に幼小のつながりを整理する必要がある。幼児が遊びの中でどのような感覚を養い、どのように発見や発想をしているのかを系統的に整理して伝えていくことで、小学校の授業づくりにおける実際の場面を想定した学習内容の提示や、思考・解決の方法に生かしていけるようにしていきたい。

(3) 2年目へ向けての取組

本研究テーマの下、幼稚園と小学校は互いの文化を理解し始めている。今後、「見て学ぶ」から小学校教師による保育体験や幼稚園教師による児童への絵本の読み聞かせ等を通して「経験し合って学ぶ」へと進化させたい。そのことを通じて、幼児と児童の数的感覚の発達や学びの連続性を教師間で共通理解し、「主体性」を育むためには、どのような保育や授業の構想が必要なのかを一層明らかにしていきたい。

幼小が互いの良さを見い出し、教職員同士が考え、交流し、実践する研究の姿を確立し、今年度進められなかった同じ地域の保育所を巻き込めるような保幼小交流への一歩を踏み出したい。